



平成29年5月24日
国土交通省中部地方整備局
木曾川下流河川事務所

木曾三川下流部の8市町村長が大規模水害時の 犠牲者ゼロの実現に向け公開ディスカッション ～第2回木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクトの開催～

伊勢湾台風を超えるような大規模水害が生じた場合、ゼロメートル地帯が広がる木曾三川下流部では、洪水、高潮による広域的、長期的な浸水が想定されます。

そのような状況においても犠牲者ゼロの実現を目指して8市町村（桑名市、木曾岬町、海津市、弥富市、愛西市、津島市、蟹江町、飛島村）の首長が地域住民の防災意識向上や広域避難などの必要な取り組みについて公開でディスカッションします。

1. 実施概要

- (1) 日 時：平成29年6月3日（土） 14:00～16:00（13:00 開場）
- (2) 場 所：桑名市民会館 大ホール 桑名市中央町3-20
- (3) 出演者：桑名市長、木曾岬町長、海津市長、弥富市長、愛西市長、津島市長、蟹江町長、飛島村長
〈コーディネーター〉国土交通省中部地方整備局 木曾川下流河川事務所長
- (4) アドバイザー：東京大学大学院情報学環特任教授 片田 敏孝氏
- (5) 一般参加：公開で実施します（入場無料、事前申し込み不要）

2. 取材について

取材を希望される方は、6月2日（金）17時までに別紙の提出をお願いします。
カメラ撮影及びビデオ撮影は、報道の際の画像・映像資料として使用いただく場合に限り可能としますが、進行の妨げとならないようにお願いします。

3. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、桑名市政記者クラブ、大垣市政記者クラブ、津島記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 TEL：0594-24-5715
副 所 長 日置 龍朗
調査課長 原 幹彦

取材登録書

取材を御希望の報道機関におかれましては、6月2日（金）17時までにご登録をお願いします。

1. 報道機関名

2. 氏名

3. 連絡先（電話番号）

4. 報道予定

【提出先】 FAX：0594-21-0893

【問合先】 国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所
副所長 日置 龍朗
調査課長 原 幹彦 TEL：0594-24-5715

第2回 木曾三川下流部

広域避難実現プロジェクト

～大規模水害時の犠牲者ゼロの実現に向けて～

日時：平成29年6月3日(土) 14:00～16:00

会場：桑名市民会館 桑名市中央町3-20

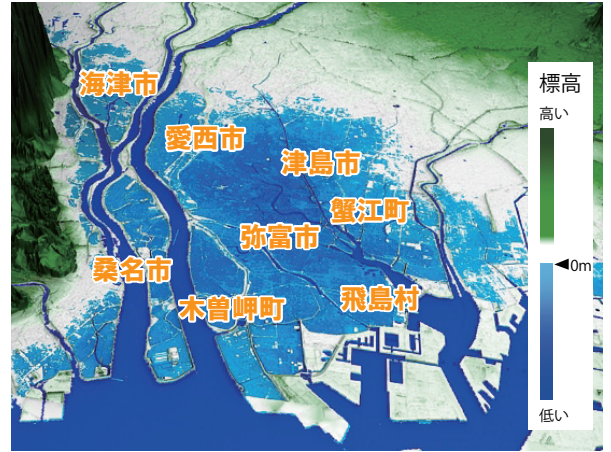
参加機関：桑名市、木曾岬町、海津市、弥富市、愛西市、津島市、蟹江町、飛島村
国土交通省中部地方整備局 木曾川下流河川事務所

開催にあたって

木曾三川下流部は、木曾川、長良川、揖斐川の最下流部に位置し、我が国最大のゼロメートル地帯が広がっています。このため、ひとたび高潮や洪水によるはん濫が発生した場合には、浸水が広範囲にわたり、浸水期間は長期化すると想定されます。

近年、これまでに経験のない規模の豪雨や台風、そしてそれによる災害が全国各地で毎年のように発生しており、木曾三川下流部でも大規模な高潮、洪水災害が発生しないと断言することができない状況となっています。

そのような状況においても犠牲者ゼロの実現を目指して、8市町村長が広域避難をはじめとする必要な取り組みについて議論します。



ゼロメートル地帯が広がる濃尾平野

プログラム

- 14:00 ● 開会
- 開会挨拶
- 水防災意識社会の実現に向けた取り組み

14:15 ● 【第1部】 ディスカッション (45分)

『伊勢湾台風の教訓をふまえ、
地域住民の防災意識向上のために何をすべきか』

メンバー	木曾岬町長	加藤 隆
	弥富市長	服部彰文
	蟹江町長	横江淳一
	飛島村長	久野時男

- 15:00 ● 休憩

15:10 ● 【第2部】 ディスカッション (45分)

『激甚化・広域化する災害に対して、
広域避難を実現するために何をすべきか』

メンバー	桑名市長	伊藤徳宇
	海津市長	松永清彦
	愛西市長	日永貴章
	津島市長	日比一昭

- 15:55 ● 閉会挨拶

- 16:00 ● 閉会

8市町村長が大規模水害時の 犠牲者ゼロの実現に向けディスカッション

出演者プロフィール

プロジェクトメンバー



いとう なるたか
伊藤 徳宇 桑名市長

■プロフィール
昭和 51 年生まれ。三重県立桑名高等学校、早稲田大学政治経済学部卒業。大学卒業後、フジテレビジョンに勤務。平成 18 年に桑名市議会議員選挙に初当選。その後、平成 24 年に桑名市長選挙に出馬して初当選。現在 2 期目。



かとう たかし
加藤 隆 木曾岬町長

■プロフィール
昭和 20 年生まれ。愛知県立稲沢高等学校卒業。平成 5 年に木曾岬町議会議員選挙に初当選。以後、平成 17 年まで 3 期 12 年務める。この間、副議長、議長を歴任。その後、平成 21 年に木曾岬町長選挙に出馬して初当選。現在 3 期目。



まつなが きよこ
松永 清彦 海津市長

■プロフィール
昭和 20 年生まれ。岐阜市立岐阜薬科大学卒業。大学卒業後、塩野義製薬株式会社に勤務。平成 11 年に岐阜県議会議員選挙に出馬して初当選。以後、2 期務める。この間、農林商工委員会副委員長、教育警察委員会副委員長、総務委員会副委員長、教育警察委員会委員長を歴任。平成 17 年、海津市長選挙に出馬して初当選。現在 4 期目。



はっとり あきふみ
服部 彰文 弥富市長

■プロフィール
昭和 22 年生まれ。明治大学商学部卒業。大学卒業後、ユニー株式会社、株式会社ユーストアに勤務。平成 19 年に弥富市長選挙に出馬して初当選。現在 3 期目。



ひなが たかあき
日永 貴章 愛西市長

■プロフィール
昭和 48 年生まれ。愛知県立稲沢高等学校、愛知工業大学土木工学科卒業。大学卒業後、地質コンサルタント会社に勤務。平成 14 年に社会福祉法人に入職。平成 15 年に立田村議会議員当選。平成 17 年に愛西市議会議員当選を経て、平成 25 年に愛西市長選挙に出馬して初当選。現在 2 期目。



ひび かずあき
日比 一昭 津島市長

■プロフィール
昭和 28 年生まれ。東京理科大学工学部卒業。大学卒業後、日本国有鉄道に勤務。平成 2 年に株式会社日仲設計事務所を設立し、代表取締役社長に就任。平成 15 年に津島市議会議員選挙に初当選。その後、平成 26 年に津島市長選挙に出馬して初当選。現在 1 期目。



よこえ じゅんいち
横江 淳一 蟹江町長

■プロフィール
昭和 26 年生まれ。大阪産業大学短期大学部自動車工業科卒業。大学卒業後、名古屋トヨペット(株)に勤務、退職後、家業の宇佐美自転車商会に就業。平成 7 年に蟹江町議会議員当選を経て、平成 17 年に蟹江町長選挙に出馬して初当選。現在 4 期目。



くの ときお
久野 時男 飛島村長

■プロフィール
昭和 22 年生まれ。三重大学農学部卒業。大学卒業後、飛島村役場に入庁。平成 12 年に飛島村長選挙に出馬して初当選。現在 5 期目。

アドバイザー



かただ としたか
片田 敏孝 東京大学大学院情報学環特任教授
(前 群馬大学大学院教授・広域首都圏防災研究センター長)

■プロフィール
昭和 35 年岐阜県生まれ。東京大学客員教授、ワシントン大学客員教授、群馬大学大学院理工学府教授などを経て、平成 29 年に東京大学大学院特任教授に就任。災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育等の専門家として、消防審議会委員、内閣府中央防災会議委員などを歴任。

コーディネーター



いの みつり
飯野 光則 国土交通省中部地方整備局
木曾川下流河川事務所長

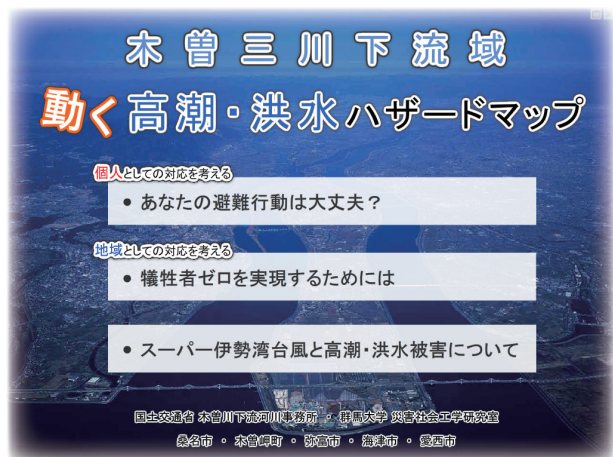
■プロフィール
昭和 44 年栃木県生まれ。名古屋大学大学院工学系研究科修了。平成 6 年建設省に入省し、国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部保全課 総合土砂企画官などを歴任。平成 28 年 6 月より現職。

動く高潮・洪水ハザードマップとは？

国土交通省木曾川下流河川事務所では、巨大台風が襲来し、高潮・洪水災害が発生したときに地域はどうなるのか、そうした高潮・洪水災害時にはどのような避難行動をとるべきなのか、その理解を図るためのツールとして、「木曾三川下流域 動く高潮・洪水ハザードマップ」を作成し、公開しています。

今後は、津島市、蟹江町、飛鳥村を加えた8市町村版に拡張する予定です。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/takashio-map/index.html>



あなたの避難行動をシミュレーションしてみよう！！

あなたの自宅の位置や避難経路、避難場所、避難のタイミング、避難手段を入力することで、あなたの避難行動を検討・検証することができます。高潮・洪水のはん濫から無事に避難できるか試してみましょう。



【シミュレーション実行中画面】



【シミュレーション結果の表示】

Webサイトへのリンク

木曾三川下流域 広域避難実現プロジェクト

広域避難実現プロジェクトの開催概要をはじめ、広域避難計画の策定に向けたこれまでの取り組み等を紹介しています。

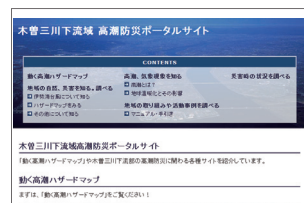


木曾三川 広域避難実現プロジェクト

検索

木曾三川下流域 高潮防災ポータルサイト

「動く高潮・洪水ハザードマップ」や木曾三川下流域の水防災に関する各種サイトを紹介しています。



木曾三川 高潮防災

検索

昭和34年 伊勢湾台風

伊勢湾台風は、愛知県、三重県を中心に猛威を振るい、甚大な被害をもたらしました。特に高潮の被害が顕著であり、犠牲者数は風水害では最大の5,098名に上りました。伊勢湾台風を契機に災害対策基本法が制定されるなど、伊勢湾台風は現在の災害対策の原点となっています。

	死者・行方不明者(人)	全半壊・流失家屋(棟)	床上・床下浸水家屋(棟)
全国	5,098	153,890	363,611
愛知県	3,260	123,577	116,391
三重県	1,281	23,172	62,655

出典：全国（消防白書）、愛知県（名古屋地方気象台）、三重県（三重県 Web サイト）



昭和34年9月26日伊勢湾台風による浸水状況 (桑名市上空 木曾三川下流域)